

分岐点

2023. 8. 27

「高澤先生は、どうするんですか」とよく聞かれるようになった。あなたの歳から定年が61歳に延びるが、校長などの役職は60歳で終わりである。それで、あなたはどうするんですかという質問である。

月日とともに、少しずつ考えが変わってきている。最初は、組織にお世話になり、生きてきた以上、その制度に従うべきかと考えた。そうすると、来年度は、教諭として、どこかの学校で働くことになる。この道は険しくはない。

今は、いばらの道を選ぼうとしている。楽な道と厳しい道があれば、あえて厳しい道を選んだ方がよいということを今までに学んできている。厳しい坂とたやすい坂があれば、厳しい坂を上るのである。

就職活動をする。面接を受ける。小論文を書く。模擬授業をする。他にもあるだろう。どれもやりたくはない。だが、あえて挑むのである。そううまくはいかないだろう。全滅するかもしれない。それはそれで仕方がない。

人生は、分岐点の連続である。山登りと同じで、厳しい坂、たやすい坂の繰り返しであり、それを誰に言われることなく、自分で決め、自分で楽しむ。思えば、今まで、こんなにも自分の将来を考えたことがあっただろうか。まさか、この歳で、自分の人生を真剣に考えることになるとは思わなかった。

ここからは、1年勝負である。いつどうなるかわからない。先の保証がない。今までは、組織に守られてきた人生だった。これからは、そうはいかない。自分で何とかしなければならない。とりあえず、どんどん受けてみるか。まるで、就活である。

昨年度、60歳を迎えて、就職活動をしている先生がいた。再任用教諭という楽な道を選ばなかった先生である。自分で、就職に関する情報を得ていた。その先生は、3月末になっても、次の仕事は見つかってはいなかった。ところが、4月になり、いくつかの選択肢から仕事を決めようとしたところに、以前の縁で仕事が舞い込んだ。今は、縁を生かした新たな職場で活躍中である。

今の自分も、その先生と同じように、就職に関する情報を集めている。仕事はある。あるのだが、決め手に欠ける。判断がむずかしい。いかに、今までは、楽な道を歩んできたのかと思う。自分が進む道に関して、判断というものは、ほとんど必要なかった。

今回の人生の分岐点はむずかしい。それだけに、おもしろい。未知の世界に飛び込むのである。ワクワクできなければ、不安で前には進めない。先の質問には、「仕事を探しています」と答えるようにしている。